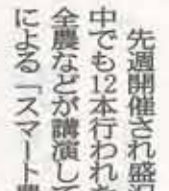


クボタ 農業Weekで特別講演

データ活用さらに 自動無人農機も進化・拡充



特別技術顧問 飯田 誠

先週開催された盛況裡に終了した農業Weekでは、33の講演が行われた。中でも12本行われた特別講演は、農機関連もクボタやヤマハ、アグリ(株)全農などが講演して注目を集めた。今週はクボタ特別技術顧問の飯田誠氏による「スマート農業の取り組みと今後の方向」について紹介する。

日本農業は高齢化・離農による労働人口の減少があるが、儲かる農業の取り組みと省力化を進め、若い人材が参入し、たくましくなるようなビジネスにすることが重要。そこで、儲かる農業の一例として紹介するのは、データを活用したスマート農業の一貫体系。ベータスになるKSSASの全加入者は8120人で営農システムは1860人、面積7万8千ヘクタール(平均42ヘクタール)、圃場数36万枚(平均192枚)。データ連携によるPDCA型の農業の実現を目指すため、稲作から畑作へ展開中の情報登録を推進し、作業完了したらまたスマート農機による作業日誌がで

が、現場のオペレーターとして活躍できる「など導入農家の声を紹介した。スマート農業実証事業では同社が29サイトで参画しているが、今後は、小売りなど市場のデータを活用し、スマートフィールドリユースを推進する。さらには、地産地消型の農家の知の活用、安全安心なバリエーション構築、中山間地や果樹農家の支援も行っていく。そして最終的にはアジア展開も目指したいとした。

そうした取り組みは、データ活用と自動無人農機の進化・拡充を通してスマート農業による作業体系の変革と一貫体系を確立した対象作物の拡充により実現を目指す方針で、オープンイノベーションで新しい価値を開発する。農業界とともに生み出した

環境管理を目的に開発された世界初の完全統合型マルチスペクトル画像センサーを搭載したイメージングドローンP4M。LTI SPEC TRAL (P4M)の他、会場小間にも展示して大いに注目を集めていた16センチクワッドの農業散布ドローンAGRAS T16の紹介を行った。共に日本初公開だ。T16は来年発売。冒頭、呉社長が現状について「農業は深刻な人手不足にある中で、持続的農業を実現するためには省力技術が重要であり、ドローンが一つのツールとして注目されている。2017年3月にAGRAS M G1を発売開始。現在では2千台を発売し、操縦者数4千人、2018の年間

一方、T16について岡田善樹マネージャーが紹介。M G1の発売から3シーズンが経過し、効率性・安全性・処理能力と3つの向上させたことを強調。ペイロードは最大16kg、タンクとバッテリーはカセット式で簡単に

5分で行った場合、1時間間に10分の散布を実現。複数制御モードでは、前方のFPVカメラと最前方のHD動画伝送で飛行安全性の確保と優れた散布性能を兼ね、高輝度スポットライト搭載。また障害物に対して飛行経路を感知し自動で飛行経路を変更し回避。自動で散布を再開する。

2015年にリモセンドローンとして当初のカメラ付ドローンでコニカミノルタのNDVIカメラを搭載したドローンは450万円と重量が15kg、手動で飛行時間7分だった。2台切り替えての今回のP4Mは、85万円と1.5kg、飛行時間は27分で1日に100回飛行させる。持ち運びも便利で、サービス利用者自らも空撮できる画期的機体だと説明した。

新製品発表会を開催

16日 積載ドローン・精密農業ドローン紹介

DJI 環境管理を目的に開発された世界初の完全統合型マルチスペクトル画像センサーを搭載したイメージングドローンP4M。LTI SPEC TRAL (P4M)の他、会場小間にも展示して大いに注目を集めていた16センチクワッドの農業散布ドローンAGRAS T16の紹介を行った。共に日本初公開だ。T16は来年発売。冒頭、呉社長が現状について「農業は深刻な人手不足にある中で、持続的農業を実現するためには省力技術が重要であり、ドローンが一つのツールとして注目されている。2017年3月にAGRAS M G1を発売開始。現在では2千台を発売し、操縦者数4千人、2018の年間

一方、T16について岡田善樹マネージャーが紹介。M G1の発売から3シーズンが経過し、効率性・安全性・処理能力と3つの向上させたことを強調。ペイロードは最大16kg、タンクとバッテリーはカセット式で簡単に

5分で行った場合、1時間間に10分の散布を実現。複数制御モードでは、前方のFPVカメラと最前方のHD動画伝送で飛行安全性の確保と優れた散布性能を兼ね、高輝度スポットライト搭載。また障害物に対して飛行経路を感知し自動で飛行経路を変更し回避。自動で散布を再開する。

2015年にリモセンドローンとして当初のカメラ付ドローンでコニカミノルタのNDVIカメラを搭載したドローンは450万円と重量が15kg、手動で飛行時間7分だった。2台切り替えての今回のP4Mは、85万円と1.5kg、飛行時間は27分で1日に100回飛行させる。持ち運びも便利で、サービス利用者自らも空撮できる画期的機体だと説明した。

要らず乗るホースを引きながら、散布作業ができる。7.5リットルまで、ほぼ全てのホースに対応しているのも魅力だ。本体重量は240gなので実用性が高い。作業準備は簡単で、ストリップをたたき、ストリップをホルダーに入れて、バックベルトに挿入する。最後にホースを巻き、作業も準備も簡単に済む。今後同社ではスプレーノズルのパイオニア企業として、新製品の研究、試作にまい進していくとしている。本体価格(税抜)3500円。

クボタ 「ほくりく夢農業2019」開催

スマート最新鋭機に高い関心

北陸地区クボタグループ・コン・田69台ならびに協賛40社の関連製品多数が展示・実演される中、9月11日の3日間、クボタ・福井・石川・富山の北陸タグリサービス(株)金沢3県から1225軒の農家が来場し大盛況となった。今回の夢農業は、クボタの新製品発表会、特設された観覧席が超満員となった。主催者挨拶(道信和彦社長)との協働による企画・運営のもと、クボタの最新鋭ト

務所長は「日照不足・高温障害が懸念されたが北陸3県では福井101、石川102、富山103と作況指数もやや良で一安心。クボタも消費増税を控え、アシスト付コンバイン、Sトラクタ、GS田植機などスマート農業を中心に数多くの新製品を発表した。クボタは来年130周年、ラクビーではないが全員でス

引する新製品の発表が行われ、熱心に見学する姿が見られた。また水田の畑地利用による野菜作提案をテーマとした講演会も行われ、来場農家の関心も高かった。

展示会場ではトラクタ・コンバイン・田植機・ネギ・人参・枝豆・星芋といった北陸各地で栽培の各コーナーが盛りだくさん。低コスト稲作・KSSAS・ドローン・野菜関連などのコーナーが設けられた。このうち、今回の夢農業について

で、嶋所長は「新製品が出そろい、これが強い武器となっている。スマートト機種には年齢に関わらず注目度が高い。若手世代にも、農業知識の技術の少なさを補えるものとして進めていく」と語った。

道信社長も「おかげさまで今期は好調に推移中だ。夢農業はクボタがフルパワーを上げて農家を応援するもの。これからも地域に合った作物作りをお手伝いするのが、クボタの一番の使命だ」と語った。

永田製作所 大阪府 西淀川区千舟1-15-41 ☎06(6473)0835 田中寿和社長

バックベルト 業効率が上がる。更に、リュックサックの様に背負うので、力が

